

エジプト 2024/25年度の柑橘類輸出量が減少 日本向けは急増

[FreshPlaza 2025年11月5日](#)

2024/25年度のエジプトの柑橘類輸出量は前年度比12.08%減の166万トン

エジプトの2024/25年度柑橘類出荷シーズンの公式統計によると、輸出量が減少した一方、トン当たりの単価は上昇した。輸出量の減少は、国内のオレンジ加工業による需要の増加に直接起因している。エジプトの輸出業者であるエスラム・ジェリラ氏が昨シーズンの統計についてコメントする。(以下「」は同氏の話)

エジプトの2024/25年度のオレンジ輸出量は12.08%減少

2024年9月から2025年7月末までのエジプトの柑橘類輸出量は合計210万2,316トンであり、そのうちオレンジは166万1,211トンであった。前シーズン(2023/24年度)は、柑橘類が合計239万1,145トン、うちオレンジが190万8,212トンであり、柑橘類全体で12.08%、オレンジでは12.94%の減少となった。

「オレンジ輸出量の約24万トンの減少は、濃縮果汁工場による生オレンジの消費に直接関係している。輸出統計には明確に反映されていないが、工場による消費はこの24万トンの差を大きく上回っている。昨シーズン生産された600万トンのオレンジの品質向上と輸出可能割合の増加により、国全体としての輸出量の減少を最小限に抑えることができた。」

エジプト産オレンジは「スペイン産より値が高い」

輸出量の減少は、エジプト国内に新たなオレンジ加工工場がいくつも出現したことによるオレンジ不足だけでなく、輸出価格の急騰にも起因しており、特にシーズン終盤において顕著であった。「オレンジ価格は、取引先の業者や消費者がもはや受け入れられないほどの市場価格の上限に達した。」

公式統計によると、シーズン全体でオレンジのトン当たり平均価格は8.82%上昇し、総販売額は2023/24年度の8億2,913万8,713ドルから2024/25年には8億5,720万6,337ドルに増加した。柑橘類全体の総販売額も、10億8,629万1,251ドルから11億3,365万6,932ドルへと増加した。

「シーズンの大部分において、輸出価格は前シーズン比で60～70%上昇し、2025年3月には2倍に達した。しかし、輸出業者の利益率は全く上昇せず、むしろ業務継続のために利益率を削らざるを得なかった。エジプトの柑橘類業界では、収益性は1シーズンごとではなく5年間で評価されるが、昨シーズンは欧州の店頭でエジプト産オレンジがスペイン産より高値で販売されるのを初めて見たにもかかわらず、利益率は最低水準であった。」

エジプト産オレンジの主要4市場に変化なし

エジプト産オレンジの数量ベースの主要輸出先4市場の顔ぶれは前シーズンと変わらず、以下のとおりであった。(これ以降の増減率の計算に誤りがあるため、増減率は全て省略しました。)

ロシア: 2024/25年度のエジプト産オレンジの輸出量は24万7,628トン(2023/24年度は28万2,500トン)、サウジアラビア: 24万6,421トン(22万7,702トン)、オランダ: 20万1,426トン(23万404トン)、アラブ首長国連邦: 11万4,448トン(12万6,255トン)

ジェリラ氏によると、これら4市場は構造的にエジプト産オレンジの主要輸出先として確立されており、価格の上昇にもかかわらず輸出業者らは良好な結果を維持した。「これらの市場の重要性は、地理的な近さ、人口から見た市場規模、消費習慣、または再輸出拠点としての地位など、様々な要因によって説明される。輸出減少の要因については、定量的に区別するのは難しいが、明白な要因はもちろん価格であり、これは加工工場の需要に直接起因している。」

業界関係者によると、需要減少のもう1つの要因はサイズである。昨シーズンは小玉のオレンジが多く、例えばロシアでは輸入業者が明確に大玉オレンジを好むため、需要減少の一因となった可能性がある。ただし、ジェリラ氏はこの影響を重視していない。「加工工場が生鮮オレンジ輸出部門に与えた肯定的な影響があるとすれば、それは小玉果を大量に吸収した点にある。私の見解では、輸出量減少の主要因は価格である。」

紅海情勢の緩和が一部のアジア向け輸出を後押し

アジアでは、紅海危機の緩和が一部の市場に反映されているが、主流は輸出の減少傾向である。

バングラデシュ：2024/25年度は7万2トン（前シーズンは6万2,011トン）、日本：2,786トン（277トン）、インド：9万2,529トン（10万8,444トン）、中国：2万8,805トン（4万1,738トン）、香港：3,356トン（6,535トン）、マレーシア：3万554トン（3万6,462トン）、インドネシア：3,767トン（4,522トン）

「紅海危機は、直行便を運航する船会社の数で定義すればかなり緩和された。バングラデシュなどエジプト産オレンジを昨シーズンに大量輸入した国もあるが、南アジアと東アジアの他の市場では逆の傾向が見られた。中国では国内産が多く、南アフリカ産の大量供給も重なった。これは中国から陸路で供給される国々や香港にも影響した。インドではエジプト産オレンジの価格が許容範囲を超え、強い影響を受けた。（一部省略）」

欧州市場への輸出は大幅に減少

輸出量の相対的な減少が最も顕著であったのは、引き続き欧州連合及び英国の市場である。

スペイン：2023/24年度の10万4,692トンから2024/25年度は2万5,447トンへ、イタリア：3万514トンから2万5,769トン、フランス：3万6,061トンから1万1,977トン、英国：9万6,192トンから7万2,510トン。一方、ベルギー向けの輸出量は4,187トンから5,674トンへと増加し、ドイツ向けは1,542トンから1,558トンとほぼ横ばいであった。

「この10年以上の間、エジプト産オレンジが欧州でスペイン産より高値だったことは一度もない。おそらく歴史上初めてのことであり、出荷量が減少するのも理解できる。ベルギー市場での増加の要因は不明だが、輸出業者の努力が奏功したか、オランダ経由の再輸出価格の高騰が原因である可能性もある。（一部省略）」

カナダ、ブラジル、アルゼンチン市場は成長軌道を維持

北米及び南米の新興市場では、状況が全く異なる。2023/24年度シーズンを振り返ると、紅海危機によりアジア市場へのアクセスが遮断され、欧州市場にオレンジが溢れたため、輸出業者らはブラジル、アルゼンチン、カナダ等、新たな市場の開拓を進めた。これらの新市場は昨シーズンも堅調であった。

カナダ：2024/25年度は3万8,948トン（前シーズンは2万1,116トン）、ブラジル：3万8,262トン（2万8,604トン）、アルゼンチン：8,223トン（1,442トン）

「これらの市場は価格の高いスペイン産に慣れており、エジプト産が高値であっても受け入れやすい。供給が安定すれば、これら3カ国はエジプト産柑橘類の主要市場になると確信している。（一部省略）」

米国及びメキシコが輸出先として登場

昨シーズンの特筆すべき点は、エジプト産オレンジが米国及びメキシコにそれぞれ25トンずつ輸出されたことである。ジェリラ氏はこれを歓迎している。

「エジプトと米国及びメキシコの間には、柑橘類の輸出プロトコルが存在せず、これまで輸出実績はゼロであった。詳細は不明だが、昨シーズンの輸出は試験的な輸出または例外的な許可によるものであったと推測される。もしそうであれば、これらの市場がエジプト産に対して開かれることは大変喜ばしい。」

次のシーズンは明るい見通し

次のオレンジシーズンは12月初旬に始まり、ジェリラ氏によれば、より穏やかな展開が期待されている。

「昨シーズンは例外的な状況であったことを忘れてはならない。オレンジ濃縮果汁の価格は、昨シーズンのピークである1トン当たり9千ドルから、現在は約2,400ドルまで大幅に下落している。価格が3千ドルを下回る水準で推移すれば、次のシーズンは輸出業者、輸入業者から消費者まで、すべての人にとって間違いなく好転するだろう。サイズの分布も昨シーズンより良好であり、大玉の割合も高まっている。ただし、エジプトの柑橘類業界では、毎シーズン特有の課題が発生するため、慎重さを忘れずに臨む必要がある。」

執筆者：ユーネス・ベンサイド（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）